

平成 19 年 12 月 19 日

関係各位

(財) 日本ハンドボール協会

競技本部長 江成元伸

審判委員長 島田房二

### 7 m スローコンテストの方法の変更に関する通達

以前は 7 m スローコンテストに使用するゴールもコイントスで決定していたが、1985 年以降はレフェリーが決定することになっている。しかし、使用するゴール側にいるチームの方がアドバイスや応援に際して有利な状況にあるので、7 m スローコンテストの方法を下記のように変更する。

なお、原則として本変更の施行日を平成 20 年 4 月 1 日とするが、主催者の判断により同日以前の大会で本変更を導入してもよい。

#### — 記 —

平成 19 年版ハンドボール競技規則必携（142～143 ページ）の記載変更（下線部が変更箇所）

7 m スローコンテストによって勝敗を決定する場合は、次の方法によって行う。7 m スローを行うプレーヤーとゴールキーパーとなるプレーヤーは、その競技に登録されていなければならない。失格・追放となったプレーヤーや退場時間の満了していないプレーヤーは 7 m スローコンテストに出場できない。

1. レフェリーは使用するゴールを決定する。
2. 一方のレフェリーが、他方のレフェリーと両チームの代表者（チーム責任者、あるいはその代理としてのチーム役員またはプレーヤー）の立会いのもとにコイントスを行う。コイントスに勝ったチームが先投か後投を選ぶ。
3. 両チームより選出された各 3 名のプレーヤーと各 1 名のゴールキーパーはセンターラインから 3 m 離れた場所（使用するゴール側のコート）に整列する。他のプレーヤーと全チーム役員は、ベンチを離れて使用しないゴール側のコートに移動する。ゴールキーパーとして出場するプレーヤーは、7 m スローを行うプレーヤーを兼ねてもよい。
4. コイントスにより先投となった A チームから選出されたプレーヤー A2、A3、A4、の 3 名のうち 1 名が 7 m スローを行う。次にスローを行うのは、後投となった B チームから選出されたプレーヤー B2、B3、B4 の 3 名のうち 1 名である。以降は残りのプレーヤーが交互に各一投ずつ 7 m スローを行う。

5. ゴールキーパーは両チームが交互に投げる度に入れ替わり、ゴールから出たゴールキーパーはコート外でゴールから 6 m 以上離れたところで待機する。
6. 両チームの各 3 名ずつのプレーヤーが全員投げても勝敗が決定しない場合、新たに両チームは各 3 名ずつのプレーヤー (A2、A3、A4、B2、B3、B4 を含む) を選出する。選出されたプレーヤーはセンターラインから 3 m 離れた場所 (使用するゴール側のコート) に整列する。
7. 先に後投であった B チームが、今回は先投となる。B チームのプレーヤー B5、B6、B7 の 3 名のうち 1 名が 7 m スローを行う。次にスローを行うのは A チームのプレーヤー A3、A4、A5 の 3 名のうち 1 名である。以降、勝敗が決定するまで、サドンデス方式で交互に 7 m スローを行う。
8. 両チームが第 4 投目を終えても、第 5 投目を終えても、そして第 6 投目を終えても勝敗が決定しない場合は、**再度コイントスを実施**して先投と後投を決定し、両チームからプレーヤーを各 3 名ずつ選出してサドンデス方式で交互に 7 m スローを行う。
9. 両チームが第 7 投目を終えても、第 8 投目を終えても、そして第 9 投目を終えても勝敗が決定しない場合は、先投と後投が入れ替わり、両チームからプレーヤーを各 3 名ずつ選出して交互に 7 m スローを行う。
10. 以降、勝敗が決定するまで、同様にして 3 名ずつ選出して交互に行う。
11. 2-0 または 3-1 となり、3 人目がスローを行わなくても勝敗が決定した場合、その時点で 7 m スローコンテストは終了である。3 人目がスローを行わないときは、その時点までの得点とする。
12. 総得点および 7 m スローコンテスト (7 mTC) の両方の結果を発表し、総得点 ○対△、7 mTC □対×とする。

		8	-	7		
		7	-	8		
		1	-	0		
A チーム	2 1	0	-	1	2 0	B チーム
		2	-	0		
		0	-	2		
		3	7mTC	2		

総得点 2 1 対 2 0、7 mTC 3 対 2 で、A チームの勝ち